

P4C JAPAN 9月ミーティング

日時 9月19日(土) 17:50～

場所 大阪大学中之島キャンパス

出席者 大学教員1 大学付属中等教員(高校)1 小学校2 私学教員4 支援学校1
社会人1

記録 金澤

1. 哲学プラクティス連絡協議会 報告

「学校で哲学するとは シンポジウム」

小学校の実践をもとに発表

就学前の言語からドラスティックな変化が子どもにある。

学校文化・言語との出会い

子どもが発言する勇気 哲学対話で人間関係を築く

御茶ノ水附属小学校

てつがく科の創設 2年間の実践の紹介

ワークショップで東京の私学の哲学クラブの生徒がファシリテートをして哲学対話を行う

福島での哲学対話の報告。放射性廃棄物・セシウムの問題を通して対話を行う。

2. 私学教員との対話

宗教科 道徳の教科化による影響

アクティブラーニングを意識した道徳の推進。それに P4C に取り組むことが最善ではないかと考える。

評価基準をどうするか。

P4C に親和力がある。有効な手段として使える。

評価は自己評価・相互評価を取り入れていく。評価を生徒に返していく。

授業の発言から評価するのが現実的。

学校がトップダウンで取り組めば、P4C はできる。

3. 学校で P4C を推進していくには

教育課程外での取り組みをしていくのが有効的な手段ではないか。

生徒会活動・委員会活動での話し合い活動についてコミュニティボールを使って行う。

自治について、中3の生徒がファシリテーターとなって見事な対話を行う。

教師がするよりは、生徒の方がファシリテーターとの技量を身につけるのが速い。

生徒会を中心にしてまわりの生徒を巻き込み、文化祭等の行事を行う。

学校の風土をつくっていく。

P4C を行うと話し方，聞き方が変わっていく。
積極的に他の先生方に関わっていく。